

みやまえこうくちょうめい ゆらい

3 宮前校区町名の由来

ちょうめい 町名	ゆらい 由来
せんぼん 千本	<p>むかし しろ とのさま ぎょうれつ とお さんきんこうたい たいへん 昔、城のお殿様の行列が通るとき（参勤交代）、大変な あつ 暑さを防ぐために松の木を千本、杉の木を三百本植えた ふせ まつ き せんぼん すぎ き さんびやくほん う といわれていた。そのためこの一帯を千本と呼ぶようにな いったい せんぼん った。この道は今で言う宮前公民館の東の道で昔の三津 みち いま い みやまえこうみんかん ひがし みち むかし みつ ちく ちゅうしん みち い しょうわ ねん こくてつ 地区の中心の道であったと言われている。昭和2年国鉄 みつはまえき れっしや はっちやく こくてつでんしや つく 三津浜駅に列車が発着するようになり、国鉄電車を作る のために、残っていた松も、全部のけられてしまった（海の ほしやうちえん ふきん どうろ 星幼稚園付近の道路）。</p>
しんやしき 新屋敷	<p>よんひやくすうねんまえ いつくしまじんじや まわ いえ けん 四百数年前、巖島神社のあった周りには家が4～5軒 あり、ここを「元屋敷」と呼んでいた。その後、周囲にた もとやしき よ ぐ しゅうい くさん家が建ってきたため、新しく建ったところを いえ た あたら た 「新屋敷」と呼ぶようになった。「元屋敷」の跡は、今も残 しんやしき よ もとやしき あと いま のこ っている。</p>
ひだしびょう 日出系	<p>しょうぼう はんしょうだい かじ し かね な だい 消防の半鐘台（火事を知らせるために鐘を鳴らす台） ふきん ひがし み むかし たはた ひろ いちばんはじ 付近から東を見ると、昔は田畑が広がっていた。一番初 たいよう み よ めに太陽が見えるところということからこう呼ばれるよ うになった。</p>
なかじょう みなみじょう 中条、南条	<p>めいじじだい はじ まち なまえ じょう 明治時代の初めには、町の名前には「条」をつけると いうきまりがあり、ふるみつ なか なかじょう みなみ みなみじょう よ 「中条」、南にあるところを「南条」と呼ぶようになった。 せんぼん ほうじょう よ 千本を「北条」と呼んでいたころもあった。</p>
かりやぐち 刈屋口	<p>やく ねんまえ あた かりやばたけ かつせん おお 約400年前、この辺りで「刈屋畑の合戦」という大きな もうりぐん かとうよしあきぐん たたか たいへんはげ いくさ（毛利軍と加藤嘉明軍の戦い）があった。大変激し いたたか ぎせいしや きず おお な い戦いで、たくさんの犠牲者（傷を負ったり亡くなっ ひと で い たたか い りしてしまう人）が出たと言われている。この戦いの入り ぐち でぐち 口でもあり、出口でもあるという意味がある。</p>

ちょうめい 町名	ゆらい 由来
はるみ 春美	<p>この辺りに昔、競馬場があったころ、たくさんの馬が集まってくるために、いやな臭いが立ちこめていた。のちに、その臭いもなくなるようなきれいな名前を付けよう、というのでこの美しい名前が付けられた。</p>
みすぎちょう 三杉町	<p>「千本」と「中須賀」と「堀川（三津浜）」が一つになったところである。三つの町が仲良く、杉の木のように天に向かって勇ましく美しくのびてほしいという願いをこめて作られた名前（杉の木は一本の幹がまっすぐに天に向かってのびる木）である。</p>
あいづちょう 会津町	<p>「会津」とは、波と波が出会った港という意味である。この土地は昔、田畑ばかりで、千本という地名であった。二十数年前の区画整理（土地をいくつかに分けること）で、会津町と名付けられた。昭和47・48年（1972・1973年）ごろに、和田安義さんという人が名前を付けたのである。今の会津辺りは、大可賀方面からと港山方面から上ってきた津波が出会ったところである。渦を巻くほど大きな津波であった。</p>
うちまちょう 内浜町	<p>昔この辺りは浜であった。そして潮が引いたときでできる土地のことを「須賀」ということから、「須賀」と言われていた。二十数年前に区画整理があり、浜の内側辺りの地域、という意味から内浜という名前になった。</p>
ふるみつ 古三津	<p>昔は「御港」または「御津」と呼ばれていた。道後温泉に来られた大宮人（天皇のいるお宮に仕える人）の乗っている船が着く港があったところである。そのことから、この土地は「三津」と呼ばれるようになった。古三津は三津の中でも昔から村があったところなので、古三津と言われるようになった。</p>
なかすか 中須賀	<p>潮の満ちひきによって海になったり陸になったりするところを昔の人は「須賀」と呼んでいた。その中ごろにある大きい「須賀」という意味である。</p>

<small>ちょう めい</small> 町名	<small>ゆ らい</small> 由来
たかやまちょう 高山町	<small>たかやま</small> 「高山うたのすけ」という人の城が山の頂上 <small>ちようじょう</small> にあったことから、この山を高山と呼ぶようになった。「高山うたのすけ」は道後、湯築城の出城 <small>とのかさま</small> （敵の動きを監視するために建てた小さな城）のお殿様であった。
はらいがわ 祓川	<small>がっこう</small> 学校のそばにある川の名前を「祓川」という。昔は「おはらい川」と言われていた。昔は顔の映るくらいきれいな川であったそうだ。不思議なことに、巖島神社でおはらい <small>やく</small> （厄よけのための神事）をしてもらって帰るとき、お札をふところに入れて川 <small>かわ</small> のそばを通ると、知らない間にお札がふところから川に落ちたのだそうだ。何人もの人が同じ経験をしたのである。「おはらいを受けたお札が流れる川」という話から「おはらい川」となったようである。それが何年も経つうちに、「祓川」と言われるようになった。
たつみちょう 辰巳町	<small>なかにしげつりゆう</small> 中西月竜さん（中西智さんのお父さん）がこの名前を付けた。港山にあった城から見て、辰巳 <small>しん</small> の方向にあったのでこの町名にしたのだそうだ。春美町と同じ、競馬場の近くで、馬のにおいのする地域だったので、その雰囲気 <small>なまえ</small> のしない名前にしたいと思って付けた名前である。
だいまいじん 大明神	<small>いま</small> 今の大明神の後ろの山を大明神山という。大明神ヶ丘ともいうそうである。その山のそばの地域であるから、大明神というようになった。

ちめい ゆらい しら ちいき
 地名の由来を調べると、地域の
れきし ちけい ふか
 歴史や地形などが深くかかわって
わ
 いることがよく分かります。

